

5分団に小型動力ポンプが配備

3月4日（木）、鶴田消防署において、「小型動力ポンプ引渡式」が執り行われ、現在使用している動力ポンプの老朽化が著しい沖、大性、山道中野、木筒、田の尻の5分団に町から最新型の小型動力ポンプの配備決定書が交付され、引き渡しが行われました。

今回分団に配備されたポンプは、3気筒4ストロークエンジンを採用した高性能かつ音が静かというもので、今までポンプのエンジン音で通信無線が聞えなかった問題を解消してくれる優れたものです。

引渡式終了後、各分団員はそれぞれ配備になったポンプの周りに集まりエンジンを始動させ、実際の音量を確認していました。

町にとってはなくてはならない大切なポンプですが、実際にこのポンプが使用されることのないことを願い、火災ゼロの町を目指しましょう。



△今回配備された小型動力ポンプ



△中野町長より配備決定書を交付される5分団



2/28生活改善グループ協議会が子どもたちへお手玉300個を贈る

3/3あやめ児童館のひまわりお茶会

2/24富士見小学校で鶴田出身の井上士花田園芸さんが授業を行う



あなたの地区の楽しい催しや出来事などを役場総務課まちづくり班までどしどしお知らせください。(☎22-2111 内線263)

防災の知識を学ぶ

2月27日（土）、山道文化センターで山道町内会（一戸信行会長）主催の「山道地区 防災研修会」が開催され、同地区に住む60人の方が参加して地域の防災について知識を学びました。

研修会では、県社会福祉協議会 福祉人材センター 所長 鳴海孝彦 氏の「防災ボランティア」についての講演と鶴田消防署員による消火器・AED・発煙筒の使い方の講習が行われ、地区住民の防災への意識を高めました。

また、3月3日（水）には、山道婦人会（小野寺のり子会長）17人による「非常用持出袋づくり」が同会場で行われ、会員が作り方のアイデアを出し合い、それぞれの家庭で使用する持出袋を製作していました。



△婦人会「非常用持出袋づくり」の様子



△袋の中身は、食料、懐中電灯、ラジオ、スリッパ、ロウソク、水入れ、マッチ、カップ、ロープなど。必ず袋の表には名前・住所・血液型を書いておく



△映像を見ながら地域防災の大切さを学ぶ参加者

ようしょうたろう

踊正太郎さんがコンサート・胡桃館小

3月10日（水）、胡桃館小学校（佐藤勝博校長）で、全児童と地域の方々を招待して、全国で活動している盲目の三味線奏者 踊正太郎さんのコンサートが開かれました。

踊さんは茨城県出身で、6歳から三味線を始め、盲学校に通いながら稽古を重ね、16歳で津軽三味線全国大会初出場而入賞、その後、弘前市に移住して第一人者山田千里さんの内弟子となり、20歳から3年連続で津軽三味線全国大会のチャンピオンに輝いた方です。

演奏では、津軽三味線以外にも「涙そうそう」や「となりのトトロ」、「大きな古時計」など、児童たちもよく知っている曲が三味線で披露され、児童たちは大喜び。今まで聞いたことのない美しい三味線の音色に、児童たちは耳を澄ませ聞き入っていました。



①自己紹介する踊さん②演奏に思わず手拍子が出てしまう③「どうしてそんなに上手なんですか？」と質問する児童④校長先生は民謡歌手!?

「2(ツル)」が5つ並んだ！はげます会

平成22年2月22日（月）、町内某所において、年月日が全て「2（ツル）」の日となる記念のツル多はげます会（三上孝夫会長）新春例会が開催されました。

今回は2が5つ並ぶ日ということで、幹事長の竹浪正造さん（92）がこの日のために制作した、七福神におめでたい詩が書かれた絵が会員全員に配られました。

誰の頭が太陽なのかを当てる「平和の光当てクイズ」で盛り上がった後、恒例の「吸盤綱引きトーナメント」が始まりました。実力伯仲の戦いの末、高野勇作さん（野辺地町）が初優勝を飾り、新春にふさわしいフレッシュなチャンピオンの誕生となりました。

今年21年目を迎えるツル多はげます会は、今回から新たに富山県在住の竹内彰一（62）さんがメンバーに加わり、日本中からも会員が集まる、まさに日本中に平和の光を照らすはげます会になっています。



△写真左は平和の光当てクイズ。中央の太陽に見立てたところに頭が出現する。写真も右上は、今回も熱戦を繰り広げた吸盤綱引きトーナメント。写真右下は竹浪幹事長の名行司ぶり

伝統芸能が引き継がれる・富士見小

2月16日（火）、富士見小学校（工藤志津子校長）で、「獅子舞引き継ぎ式」が行われました。

富士見小学校では、約400年前から学区内木筒地区に継承されてきた「西中野組獅子舞」を後世に伝えようと、統合前の旧木筒小学校時代から学校活動の一環として取り入れています。

式には、全校児童と獅子舞を指導する長内英五郎さん、富士見小獅子舞応援隊の皆さんが参加し、6年生13人が最後の舞を披露した後、6年代表の長内輝君が「きびしい練習になると思いますが力を合わせて頑張ってください」と言葉を贈り、5年生たちへ獅子頭や笛太鼓を渡すと、受け取った5年代表の田澤駆君から「6年生の獅子舞にかける思いを引継ぎました」と決意が述べられ、伝統ある富士見小の獅子舞が引き継がれていきました。



①6年生からお世話になった長内英五郎さんと獅子舞応援隊の皆さんに花束を贈呈②6年生最後の舞③踊り終わった後さびしい表情を見せる6年生④伝統の重みを感じながら獅子頭を受け取る5年生